

おわりに

以上本書は、名古屋大学経済学部の前身校の約三〇年間にわたる歴史を、その基礎を築いた初代校長渡辺龍聖と、その所在地である名古屋市との関係に注目しながら概観しました。

もちろん、限られた紙幅の中ではその全貌を紹介することは難しく、取り上げることができなかった歴史が多くあることは言うまでもありません。それらについては他日を期するとともに、皆さんの御教示を得たいと思います。

現在でも名古屋大学経済学部・大学院経済学研究科は、名古屋市やその周辺地域、ひいては日本の経済をにない、さらには世界に羽ばたける人材を輩出し続けています。その歴史的系譜が、その前身校にあたる名高商や名経専に見られることを理解していただけたなら、ひとまず本書の目的は達せられたかと思えます。

主要参考文献

- ◎名古屋大学史編集委員会編『名古屋大学五十年史』通史一・二、部局史一（名古屋大学、一九九五、八九）
- ◎作道好男・江藤武人編『名古屋大学経済学部五十年史』（財界評論新社、一九七七）
- ◎渡辺進（「其湛」編輯局）編『劍陵十周年史』（其湛会、一九三一）
- ◎竹内常善「日本経済と名古屋大学経済学部の接点」（『名古屋高等教育研究』二、二〇〇二）
- ◎新修名古屋市史編集委員会編『新修名古屋市史』第五卷・第六卷（名古屋市、二〇〇〇）
- ◎愛知県議会事務局編『愛知県議会史』第四卷（愛知県議会、一九六二）
- ◎小樽高商史研究会編『小樽高商の人々』（小樽商科大学、二〇〇二）
- ◎武田勝彦「東京専門学校海外留学生の航跡」（『早稲田大学史紀要』二八、一九九六）
- ◎中村治人「実業専門学校経営論に関する史的考察ノート―渡邊龍聖『乾甫式辞集』に見られる商業専門教育論―」（『名古屋大学史紀要』五、一九九七）
- ◎渡邊龍聖『批評的倫理学』（改訂版、開発社、一九二一）
- ◎渡邊龍聖『乾甫式辞集』（名古屋高等商業学校、一九二九）
- ◎加藤詔士「外国人教師のみた名古屋大学」（『名古屋大学史紀要』一一、二〇〇三）
- ◎小島清編『学問遍路 赤松要先生追悼論集』（世界経済研究協会、一九七五）
- ◎高橋義雄『名古屋大学―スポーツの歩み』（名大史ブックレット三、二〇〇一）
- ◎名古屋大学文書資料室編刊『ちよつと名大史』（増補版、二〇〇四）

著者略歴

堀田 慎一郎 (ほった しんいちろう)

一九六九年 愛知県豊橋市生まれ

二〇〇〇年 名古屋大学大学院文学研究
科博士後期課程修了(歴史学)

現在 名古屋大学文学書資料室助手
専攻 日本近代史、記録史料学

名大史ブックレット¹⁰

名古屋高等商業学校

——新制名古屋大学の包括学校②——

二〇〇五年三月三十一日 第一刷発行

著 者 堀田 慎一郎

編集発行 名古屋大学文学書資料室

〒464-8601 名古屋市中種区不老町

電話 〇五二(七八九)二〇四六

印刷所 株式会社 ク イ ッ ク ス

〒456-0004 名古屋市中熱田区桜田町一九二〇
電話 〇五二(八七一)九一九〇

【名大史ブックレット既刊一覧】

- ① 『これまでの大学院・これからの大学院』 山口拓史 二〇〇〇年一二月刊
- ② 『名古屋大学 キャンパスの歴史1（学部編）』 神谷 智 二〇〇一年二月刊
- ③ 『名古屋大学 スポーツの歩み』 高橋義雄 二〇〇一年三月刊
- ④ 『豊田講堂と古川図書館―名古屋大学の寄付建物―』 堀田典裕・木方十根 二〇〇一年一二月刊
- ⑤ 『名古屋大学最初の外国人教師―ヨングハンス先生とローレッツ先生―』 加藤鉦治 二〇〇二年三月刊
- ⑥ 『草創期の名古屋大学と初代総長洪沢元治』 神谷 智 二〇〇三年三月刊
- ⑦ 『名大祭―四〇年のあゆみ―』 山口拓史 二〇〇三年三月刊
- ⑧ 『岡崎高等師範学校―新制名古屋大学の包括学校③―』 山口拓史 二〇〇四年三月刊
- ⑨ 『豊田講堂―Toyoda Auditorium―』 山口拓史 二〇〇四年九月刊



表紙表：大正期の名古屋高等商業学校本館
(名古屋大学経済学部提供)

表紙裏：現在の名古屋大学経済学部